

岐阜女子大学における携帯情報端末の活用状況の報告

林 知代

岐阜女子大学 文化創造学部

(2015年11月27日受理)

Good use of personal digital assistant report in Gifu Women's University

Faculty of Cultural Development,
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

HAYASHI Tomoyo

(Received November 27, 2015)

要 旨

岐阜女子大学文化創造学部では、平成25年度より携帯情報端末(iPad)を授業に導入してきた。活用の状況について学生を対象にアンケート調査を行ったので、その結果について報告する。調査の結果、授業での活用状況は専修によって差があり、頻繁に使っている学生とあまり使っていない学生が存在することがわかった。その一方で、私的な活用は授業での活用と関係なく行われており、携帯情報端末は学生に活用されていることもわかった。また、デジタルの資料配布について紙資料と変わらないと考える学生が多くいること、授業での活用は所有の満足度に差を与えることもわかり、携帯情報端末の利点を生かした授業での活用の推進が重要であることがわかった。
<キーワード> 携帯情報端末, ICT活用, メディア活用

I. はじめに

岐阜女子大学文化創造学部では、平成25年度より、授業での活用を前提に、学生の入学時に購入費の補助をしたうえで、携帯情報端末の購入を推進している。

学生は携帯情報端末を活用できているのか、携帯情報端末をどのように活用しているのか、本当に、携帯情報端末の導入は、学生の学修の役にたっているのかなどの疑問が、当然のことながら浮かぶ。

そこで、学生を対象にアンケート調査を行ったので、その結果について報告する。

II. 学生へのiPad導入の状況

学生は、入学時に携帯情報端末(機種はAPPLE社製 iPad 64 GB wifi モデルを指定。(以降iPadと記載する))を購入している。

大学での端末所有の考え方は、BYOD(Bring Your Own Device: 私物端末の持ち込み)として取り扱っている。学内の利用環境は、整

備され、学生はいつでも、どこでも、インターネット接続ができる状況にあり、iPadの利用環境としては申し分ないと言える環境である。

導入教育として、1年生と編入生を対象に、5月の実機の配付時に、1コマ(90分)の講習を行っている。

講習内容は、次のとおりである。

- ① appleID 取得
- ② 校内 wifi 設定
- ③ 授業に必要なアプリの案内とインストール方法
- ④ iCloud バックアップ設定
- ⑤ セキュリティ パスコード設定
find iPad 設定
- ⑥ BYOD について
- ⑦ 情報モラル 授業の撮影・録画について

導入を始めた平成25年度は、講習にて充電しながら初期設定を行うような状況であった。

しかし、平成27年度の講習では、iPadを前日に配布したにも関わらず、ほとんどの学生が指示をしなくても充電した状態で持参し、初期設定も自分で行ってきていた。

学生へのスマートフォンの普及が進み、iPad操作への不安は、この3年間で急速に解消されていると肌で感じられる状況である。

Ⅲ. 学生の活用状況調査

1. 調査の時期と対象

平成26年度末である平成27年2月の春休み前に行う文化創造全体会において、質問紙を配布し、その場で回答、回収を行った。

調査対象は、入学時にiPadを購入している、文化創造学部1、2年生である。

2. 調査の項目

活用度(2件)、活用内容(4件)活用環境

(2件)満足度(1件)について調査した。

データ処理には、正一郎2(株式会社アイ・エー・シー)、および、SPSS 21.0 (IBM)を用いた。

3. 回答状況

113名の学生から回答得た。専修毎の人数の内訳は、子ども発達専修28名、学校教育専修38名、書道・国語専修25名、観光専修4名、アーカイブ専修17名、専修未回答1名であった。また、学年の内訳は、1年生名62名、2年生44名、学年未回答7名であった。

Ⅳ. 結果と考察

1. 利用状況

「授業で週に何時間程度iPadを使いますか?」の問い(図1)に対して、46.2%の学生が「使っていない」と回答した。残りの53.8%の学生は、2時間以内、3、4時間、5時間以上と活用時間は異なるがそれぞれの時間「使っている」と回答した。

学年毎の集計では、2年生で「使っている」と回答する学生は36.4%であるのに対し、1年生では66.7%の学生が「使っている」と回答している。1年生の授業は、iPad導入2年目であり、教員の取り入れが進んできているのではないかと推察できる。

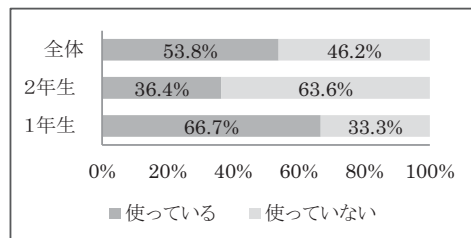


図1 授業での活用状況

また、専修毎の集計を図2に示した。

専修が同じでも授業の選択は専修をまたい

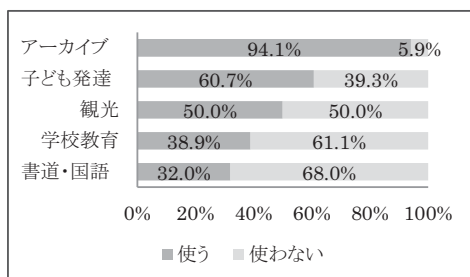


図2 専修毎の授業での活用時間

で行えるため、当然、活用時間が異なる学生が存在するが、アーカイブ専修の学生の94.1%が「使っている」と回答しているのに対して、書道・国語専修では32.0%にとどまっております。授業での活用は、専修によって大きく差があることがわかった。

次に、授業以外での活用についての調査の結果を図3に示した。78.6%の学生が、授業以外の時間に「使っている」回答している。

この結果は、先の授業内で利用を大きく上回っており、授業で活用していない学生も、私的な時間にはiPadを活用していることがわかった。

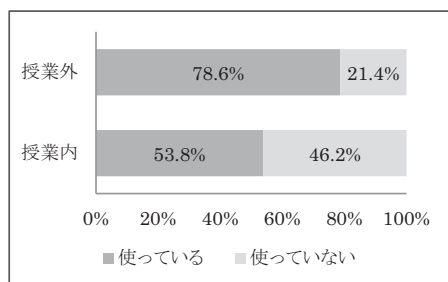


図3 授業外の活用と授業内の活用

2. 電子テキストとしての受け入れ状況

①わかりやすい資料はどれか

デジタル資料と紙の資料のどちらがわかりやすいかの問い（図4）に対して、紙の資料と回答した学生46.8%、どちらも同じは40.4%、デジタル資料は12.8%であった。従来からある紙のほうが優位な結果ではあ

たが、どちらも同じというデジタル資料をあわせると、59.6%と半数を超えた。

なぜその意見を選択したかの自由記述では、紙の資料がわかりやすいとした学生は、書き込むことができる、線がひける、目が疲れない、慣れている、iPadは充電がなくなる、紙の資料のほうが詳しいなどの意見があった。

デジタル資料がわかりやすいとした学生は、資料がカラーで見られる、資料がきれいな、写真が鮮明である、動画がみられる、文字を拡大できる、資料をなくさずにすむ、かさばらないなどの意見があった。

どちらも同じという意見では、それぞれの利点をあげ、場合によって使い分けているという意見が多かった。また、以前は紙資料が良いと思っていたが、慣れてきたら利点が違うと感じているという意見もあった。

これらの意見から、学生はiPadでの資料配布を柔軟に受け入れていることが伺え、iPadの特性を生かした資料を授業に活用していくことで、iPadを使った資料配布が受け入れられていくと考えることができる。

しかし同時に、書き込みに重点をおいた紙の資料を並行して活用していく事も、重要であるのではないかと考える。

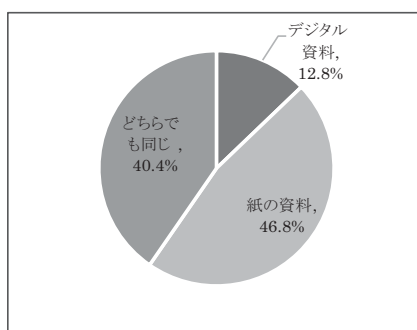


図4 デジタル資料と紙資料のわかりやすさ

3. 利用環境

クラウドを利用しているかの問い(図5)では、授業で活用できている学生の44.6%「利用している」と回答したのに対し、活用できていない学生の40.0%が「クラウドが何かわからない」と回答した ($t=2.57$, $df=104$, $p<.012$)。

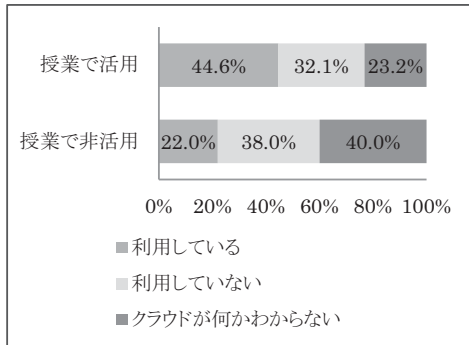


図5 クラウドの利用状況

次に、家庭や下宿や寮でwifiを利用していますかの問い(図6)では、授業で活用できている学生の93.3%が「利用している」と回答したのに対し、活用できていない学生の方は、69.4%の利用にとどまっていた ($t=2.76$, $df=81.23$, $p<.007$)。

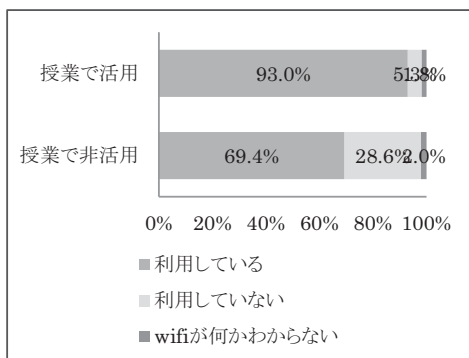


図6 家庭や下宿や寮での、wifiの利用状況

このことから、授業で活用できている学生は、iPadの活用に対して前向きであり、生活環境として情報機器の取り扱いになれてい

るのではないかと推察する。

4. 満足度

iPadを買ってよかったと思いますかの問い(図7)では、授業で活用できている学生の80.7%が「よかったと思う」と回答したのに対し、活用できていない学生の60.8%が「いらなかったと思う」と回答した ($t=4.76$, $df=96.14$, $p<.000$)。

授業での活用は、学生の所有の満足度に大きく影響するので、授業での活用は重要であるといえる。

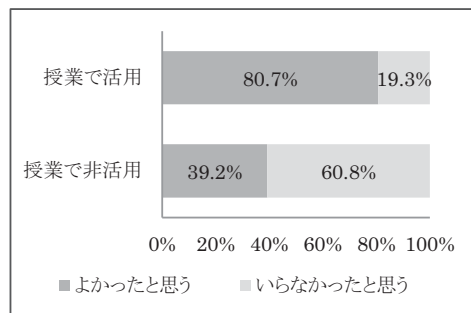


図7 iPadの購入満足度

V. おわりに

今回の調査により、iPadの授業導入から2年経過した時点での、iPadの授業での活用状況と学生の私的活用の状況が明らかになった。

今後の課題として、1年生と2年生では授業の活用状況が異なっていることや、導入講習の様子の違いなどかかえることから、年々状況は変化していくと考えられ、今後も状況の変化に着目して調査を重ねていく必要があると考える。

付記

この報告のデータの一部は、情報教育学会第31回年会において発表している。本報告では、より詳しい報告を行った。